

第1回全国農泊ネットワーク宮崎大会
2021年9月5日

第1分科会

遊ぶ これからのツーリズム

グリーン・ツーリズム、その実践成果の継承と発展

コーディネーター

五艘 みどり
(帝京大学)

自己紹介

【経歴】

- 立教大学大学院観光学研究科
- 株式会社ジャルパック
- 株式会社富士通総研
- デロイトトーマツコンサルティング合同会社
- 帝京大学にて現職

【専門】

- 観光地経営、観光地理学

【研究テーマ】

- 観光まちづくり
- ルーラルツーリズムの組織と人材（日・欧）

日本における都市と農村の交流

都市と農村の交流

- 1970年代に政策的に開始、1990年代にはグリーンツーリズムの用語が誕生。地域住民主体の農村ツーリズムが推奨される。

グリーン・ツーリズムが抱える問題と課題

- 地域における担い手の高齢化、事業の継承が問題となる。組織のあり方、人材の育成、事業の収益性は重要な課題となった。

新たなツーリズムへの対応

- 一方で、インバウンド拡大から外国人旅行者の受け皿としても農村には高い期待。時代に合わせたツーリズムの質を変化させる必要がある。

イタリアの事例から：組織と人材

【組織】

- 農民連合下に農村観光推進組織
- 教育機関と連携して人材育成セミナー実施
- 農村女性組織、観光協会、山岳協会などと連携

【人材】

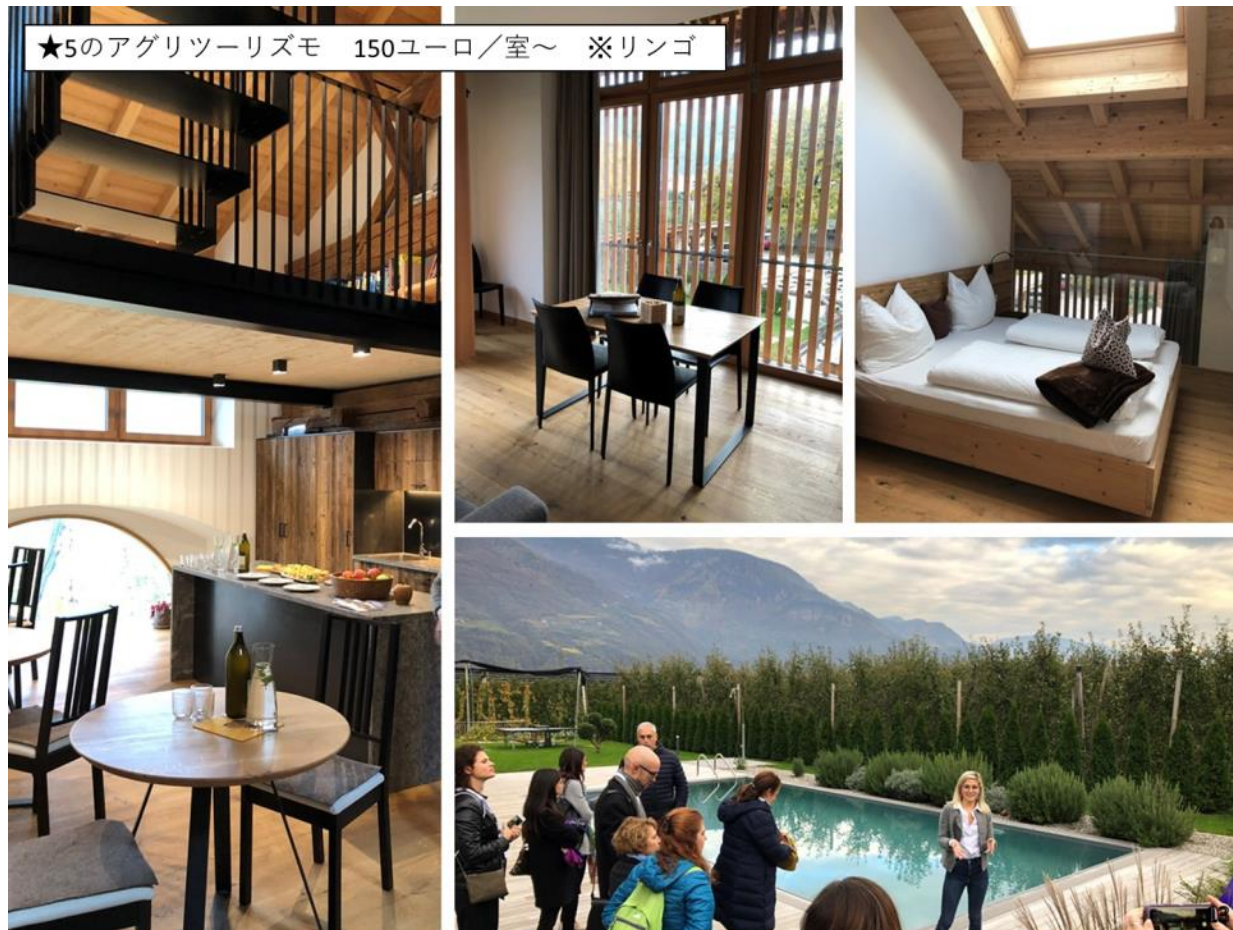
- 農村女性が活躍
 - 農家レストラン
 - 体験プログラム
 - 加工品販売
- 観光ありきの農業を次世代が継承する好循環



イタリアの事例から：新たなツーリズムへの対応

【サービスの質向上】

- 農泊は格付けし情報公開、ホテルレベルの室内
- 農村観光推進組織が予約サイト運営



第1分科会では

旅行市場の変化にしなやかに反応しながら、長期にわたる活動、多様な組織との連携、新たな手法の取入れなどを実現してグリーン・ツーリズムを進める方々から報告をいただき、今後の発展可能性を探ります。

報告者

- 隠れ里ひとくまツーリズム 樫木様
- 仙北市農山村体験推進協議会 門脇様
- 栗原市農泊推進協議会 大場様
- リロカリコクリ 米津様

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。